

今日の神経疾患治療指針 第2版

水澤英洋, 鈴木則宏, 梶 龍児
吉良潤一, 神田 隆, 齊藤延人 ● 編

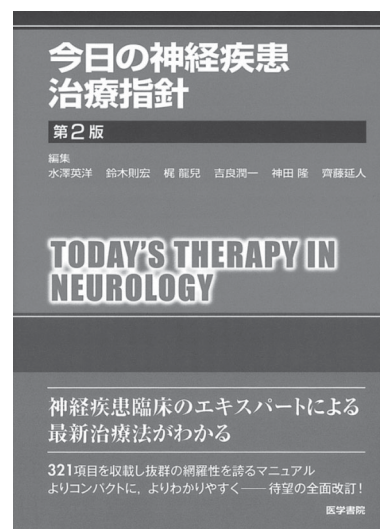
東京工科大学医療保健学部長／信州大学名誉教授 柳澤信夫

このたび『今日の神経疾患治療指針第2版』が上梓された。これは1994年に出版された第1版の続編の形をとっているが、その内容はまったく一新され、過去十数年にわたる神経疾患診療の進歩をそのまま現した内容となっている。第1版では、現在の神経内科の診療領域に限らず、精神科、脳神経外科、リハビリテーション科など関連領域のテーマについても、幅広く、各々の専門家によって執筆された。

このたび全面改訂された第2版では、過去十数年に大きく発展した頻度の高い疾患から希少疾患までの最新の治療が、基本的なガイドラインに沿っていねいに、かつわかりやすく記述されている。本書の編集者は日本神経学会代表理事の東京医科歯科大学大学院水澤英洋教授を筆頭に、異なる専門分野の神経内科教授5名、脳神経外科教授1名からなり、①頻度の高い症候の病態と鑑別、②各種治療法の特徴と副作用、③個別疾患の治療法に分けて、各々の疾患、病態の専門家によって記述されている。

第1章「症候と鑑別診断」では、意識障害、認知症、てんかん、頭

痛、めまい、失神など、頻度の高い神経症候について、定義、病態、診断、鑑別などが要領よくまとめられ、神経診断学のコンサイスとして大変優れている。そして第2章「治療総論」では、目的別に各種薬剤の作用機序、適応と副作用をていねいに述べている。例を挙げると、近年新しく開発された脳血管障害に対する各種薬物は、基本的な抗血小板薬、抗凝固療法、血栓溶解薬に加えて、脳保護薬、脳循環代謝改善薬、脳浮腫治療薬などについても、個々の薬物ごとに、急性期の使用法をきざみに評価し、年齢や基礎疾患への留意事項、全身管理の要点などが具体的に記述されている。そして疾患としての脳血管障害の治療方針は、各論において96ページを費やして、疾患ごとに病態、リハビリテーションに至るまで国際分類も含めて詳述されている。その結果どのような患者に遭遇しても、その治療について十分な情報がこの1冊で得られる構成となっている。これは編者、筆者ともに豊富な臨床経験のうえに、個々の診療に必要な情報がどのようなものかを熟知して、文章の構成と内容が定められた成果と理解



される。さらにすべての疾患において、家族への説明・指導が独立した項目として述べられており、診療内容のユニークさを高めるものとなっている。

各種神経疾患の治療の進歩は、医学雑誌の特集として年々発行されるが、それらは治療の進歩の動向を知るうえで有益であるものの、臨床医にとって受け持った個別の患者に適した治療を選ぶエビデンスに基づく十分な知識はなかなか得られ難い。

本書は文字どおり個々の神経疾患患者の治療指針を得るための辞典として、さらに神経疾患の治療を通じて神経学を改めて学び、医療の中で患者をどのように位置づけるべきかを考えさせる内容を含んだ、臨床医の座右に置き安心して参照できる書物となっている。

A5 頁1,136 2013年
定価15,750円
(本体15,000円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01621-6]

医学書院刊